



～全村博物館構想とは～

村全体を屋根のない博物館とみなし、そこにある歴史や自然、文化、生活を博物館にあるような価値あるものと考え、大事にしていこうという取り組みです。

【発行・問合せ】

阿智村役場 協働活動推進課
全村博物館構想事務局
TEL 0265-48-0556
Fax 0265-43-2351
Mail info@achilabo.com

京都祇園祭へ参加しました！

7/17、智里西地区の皆さんを中心におよそ20人が京都祇園祭を訪れました。智里西地区は京都市の下京区木賊山町と15年にわたり交流しています。木賊山町の山鉾が、園原が舞台の能「木賊」をモチーフとしていることから交流が始まりました。今回は木賊山町から招待があり、阿智村から参加した5人が、かみしもを着て山鉾とともに市内を巡行しました。

トクサ（木賊）は湿地や日陰に生える植物で研磨材として使われてきました。奈良時代、園原は木賊の名産地として知られ、木賊を都へ献上してきました。東山道最大の難所・神坂峠の麓である園原が登場する文学は多数あります。能『木賊』もその一つで、出家した息子が幼いころに別れた父と園原で再会する物語です。



山鉾「木賊山」のご神体は『木賊』の主人公である園原の翁（おじいさん）です。右手には鎌、左手にはトクサを持っています。



トクサ

500年以上のつながりを持つ、京都と園原の深いつながりが、現代の新しい地域間交流につながっていけば、面白くなります。

全村博物館協会 林茂伸

この言葉知っとる？ 第1回

伍和歴史の会
プレゼント

伍和の歴史を知る会は、伍和地区で話されてきた方言の調査に昨年から取り組んでいます。

「これは方言？」と思った言葉を記録して持ち寄り、飯田下伊那地域で発行された方言集を数冊用意し、そこにある言葉を伍和地区で使ってきたか確認したり、方言かどうか辞書で調べたりしています。このコーナーでは今月の方言として、毎回方言を紹介していきます。

今月の方言 「いれいち」

メジャー度★★★★☆

意味：一つおき、交互に一列に並ぶ様子を表す
例文：「○と▲がいれいちになっている。」

○▲○▲○▲○▲

解説：現在もよく使われており、日常生活で耳にすることも多いのではないのでしょうか。南信州以外ではあまり使われていない、この地域特有の言葉のようです。

熊谷元一写真童画館からのお知らせ



【いま甦る 昭和の子どもたち展】

遅く働き・楽しく遊び・学んだ子どもたちの記録写真を54点展示しています。

・期間：7月22日(水)～11月16日(月)



入館料：一般350円 割引券持参者：250円

阿智村民100円 中学生以下無料

火曜日休館（8月中及び9月22日・11月3日は開館）
（12月28日～1月3日休館）

「もっと知ってほしい熊谷元一」
スタンプラリーを開催中！

東山道・園原ビジターセンター・熊谷元一写真童画館をめぐりスタンプを押すと、記念品をプレゼントします。

・期間：～10月12日（月）まで

・スタンプは入館無料スペースに設置

阿智村のこと、もう少し知ってみませんか？ 初心者大歓迎！『阿智村 歴史ゼミ』参加者募集



テキストとして『わたしたちの阿智村 阿智村の歴史と文化』を読み進めていきます。

ガチガチのお勉強会ではなく、みんなでワイワイと地域を知っていくサークルです。「興味はあるけど歴史は詳しくない…」という方も大歓迎！ぜひお気軽にご参加・のぞきにきてください！

日時：毎月第2.4火曜日 午後7時～

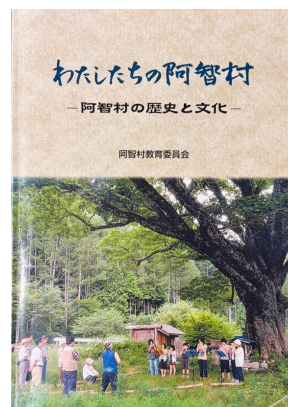
場所：阿智村中央公民館

参加費：初めての方のみテキスト代800円

申し込み：全村博事務局まで

テキスト：『わたしたちの阿智村 阿智村の歴史と文化』

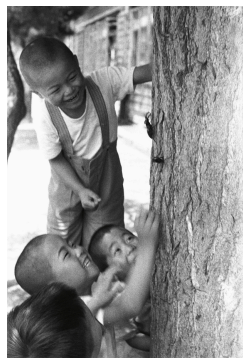
(阿智村歴史副読本編集委員会／編者)



使用するテキスト

9/5（土）熊谷元一世界の記憶登録を目指すシンポジウム

熊谷元一写真のユネスコ「世界の記憶」登録申請に向け、2回目となるシンポジウムを開催します。今回は、市民から写真を募集して街中に写真を展示する日野宿探検隊（東京都）の取り組み、民俗学の専門家からの話を聞き、元一写真の活用について考えます。



1953 会地小学校

日時：9月5日（土）午後1時30分～4時

場所：熊谷元一写真童画館 2Fホール

登壇：日野宿探検隊（東京都日野市）

：菊地 暁氏（京都大学）

7/19（日）セミの抜け殻調査

セミの抜け殻を探し、種類や性別を調べる抜け殻調査（6年目）を開催しました。保育園児～80代まで20人が参加し、木の幹や葉の裏につく抜け殻を探しました。アブラゼミ、ヒグラシ、ニイニイゼミの抜け殻が合計207個見つかりました。

講師の山田拓氏からは性別の見分け方を教わり、参加者は虫メガネを使って観察しました。初心者はなかなか見分けが付きなかったですが、一度コツがわかると見分けることができるようになります。



動画
←

にっしー農園米づくり体験

7月14日（土）、3回目の米づくり体験を開催し、稲の生長のために欠かせない草取りと、田んぼに生息する生物の観察を行いました。

草取りは、取った草の量をグループで競い合い、優勝者には景品が贈られました。その後、田んぼにいる生き物を捕まえ、どんな生き物がいるか図鑑などで調べました。「コオイムシ」「ヒメゲンゴロウ」など11種類の生き物が見つかりました。参加した子どもたちは、真剣な様子でまじまじと虫を観察したり触ったりしていました。



動画
←

【協力隊日記】

『阿智の夏まつり』ルーツは？

毎年7月下旬に開催される阿智の夏祭りのルーツを調べました。元々は駒場の祇園祭で、津島神社から迎えた厄病除けの神を祀る神事が毎年7月14日に駒場の各地区で実施されていました。少なくとも昭和初期には納涼煙火を揚げようになり、熊谷元一が1937(S12)年に撮影した番付（写真）からは数々の煙火や協賛者が確認できます。祭りの主催者は商工会等を経て、現在の実行委員会形式の「阿智の夏まつり」へと継承されました。（地域おこし協力隊：大岩）



阿智村 あちらボ



#全村博
#だけじゃない阿智

講師の山田拓氏からは性別の見分け方を教わり、参加者は虫メガネを使って熱心に観察しました。なかなか区別がつかず苦戦する参加者をよそに、山田氏が瞬時に性別を見分けていくプロの技には、驚きと感心の声が上がっていました。

《特別企画展》
熊谷元一の写真の原点
～一年生・ある小学教師の記録展～

岩波写真文庫から出版され、第1回毎日写真賞を受賞。写真界で絶賛された不滅の記録写真を50点展示します。
期間：11月18日(水)～令和9年3月15日(月)



7月17日（金）、京都祇園祭を視察しました。祭りで登場する山鉦の中でも「木賊山」は能「木賊」に由来し、その「木賊」は園原に由来しています。阿智村と木賊山町はかれこれ15年の付き合いで、今回は初めて阿智村から5人がかみしもを着て参加しました。

「木賊」とは右の植物のことです。園原の木賊は、研磨剤として重宝されてきました。そして木賊のある園原には神坂峠に基づく物語や伝説が根付いており、これに倣ったのが、能『木賊』です。この物語は、出家した息子が幼いころに別れた父と再会するというものです。その舞台が信州国、園原（現在の阿智村）でした。

そして、能『木賊』に倣って作られたのが、『木賊山』という山鉦です（左の写真）。上に乗っているお爺さんがご神体であり、かつ能『木賊』の主人公です。右手には鎌、左手には木賊を持っています。

智里西地区では、下京区
木賊山町の住民と15年の交流を続けています。また全村博としてもその発展に貢献してきました。その経緯を知る全村博理事長の林よりコメントです。→